開会挨拶

黒坂　光（京都高大連携研究協議会 会長／大学コンソーシアム京都 理事長）

皆さま、おはようございます。ただいま、ご紹介にあずかりました、京都高大連携研究協議会会長、また公益財団法人大学コンソーシアム京都理事長の黒坂と申します。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

本日のフォーラムは第 20 回であり、本年はこれを主催します京都高大連携研究協議会の発足 20 周年になります。この協議会でございますが、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所、大学コンソーシアム京都という、京都ならではの産官学の組織が連携し、それにより次世代の人材を育成しようという非常に大きな目的を持った協議会でございます。この組織が 2003 年５月に発足して、今年で 20 周年になります。

記念すべきこのフォーラムを、このように対面でも実施することができましたが、今日においても、新型コロナウィルス感染症はいまだ終息しておりません。私も大学に所属しておりますが、大学の活動も、コロナでさまざまな影響を受けております。コロナへの対応等を通じて、私も多くのことを学びました。私は、日本はデジタル先進国だと思っていましたが、思いのほか、デジタル化は進んでおらず、日本のデジタル化が立ち遅れていることに気付きました。また、日本の産業も至るところで立ち後れてきておりまして、分野によっては近隣のアジアの国々に比べても遅れをとっています。その一方で、大学、また高校においてもそうでしょうが、科学技術が高度に専門化して、より専門的な教育が求められております。

このような社会の中で、日本がいきいきと輝いていくために、次の社会の担い手を育成していくことがより強く求められています。社会の担い手とは、それがすなわち本日のフォーラムのサブタイトルにもあります「社会の創り手」です。これをどのように育成していくかが高等教育の課題です。社会は、高校生や大学生に次の社会を担う人材となることを期待しているのではないでしょうか。すなわち、高校生や大学生を育成することが、社会の期待や要望に応えることになるのです。この社会からの強い要望に対して、本日は、このように高校・大学の教職員の皆さまが一堂に会して、情報共有、事例報告等を行うことで、教育の改善につなげる非常によい機会になるのではないかと思っております。

ご出席の皆さまには、本日のフォーラムの内容をお持ち帰りいただきまして、それぞれの高

校・大学教育に結び付けていただきたいと思います。それも一般論ではなく、それぞれの学校の教室の中で、授業現場の教育の改善につなげていただくことが重要であり、そうなって初めて、この協議会の目的である人材育成を達成できるものと考えております。

司会の山本先生からもお話がありましたが、本日はハイブリッド開催となっております。これは初めての試みでありますので、何かと不手際が生じる可能性がありますが、ご理解いただければと思います。また会場にご参加の皆さまも、第８波の到来ということでありますので、感染予防対策にご協力いただきまして、本日のフォーラムが実りあるものとなりますことを祈念しております。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。